

書評

〔評者〕
長尾啓一
千葉大学名誉教授/東京工業
大学特任教授



医療者のための結核の知識 第4版

四元秀毅, 山岸文雄, 永井英明 著

● B5 頁208 2013年
定価 3,570 円(本体 3,400 円+税 5%)
[ISBN978-4-260-01686-5] 医学書院刊

評判の高い本書が上梓されたのは2001年3月であり、この度早くも第4版となった。医科学の進歩のスピードが目覚ましいからではあるが、結核医療が政策医療であることも理由の1つである。初版の序を読み直してみると、結核に立ち向かう著者たちの思いが伝わってくる。病原微生物としては不器用で鈍重であるが、紀元前からしたたかに生き延びてきた結核菌に畏敬の念を抱いているようにも読み取れる。そして今回の版では新たな著者により遺漏なく最新の知見が加えられ、さらに充実した。

結核医療は結核専門の医師だけでなく、一般医家、コメディカルスタッフ、行政職員との協働がなければ成り立ちゆくものではない。したがってそこに関与する者全てに、結核に関する必要最小限の知識を有していることが求められる。そのためには幅広い職種を対象とした結核に関する良書が必要となるが、

本書こそまさにその目的に叶った書であろう。

まずは、結核の歴史、疫学、検査、治療、予防についてコンパクトではあるが深く解説されている。項目ごとに「ポイント」と称して重要事項が箇条書きにされており、概念を頭にインプットしやすい。結核の病態はきわめて多岐にわたるため、ともすると結核が鑑別診断に上がらないこともある。免疫不全と結核、さまざまな結核症例の提示の項、さらに付録の非結核性抗酸菌症は、一般診療の場で遭遇する多様な結核症およびその類縁疾患を知るのにきわめて有用である。また、政策医療であるがために多くの届け出・申請が必要となるが、それらの書類すべてが巻末に参考資料として掲載されており、実務面でも大いに役立つと思われる。

適正な結核医療のためにもぜひ座右に備えていただきたい1冊である。